

やよい句会 令和四年 代表句

七月

石佛と憩ふや坂の木下闇
画の川へ飛び込みたしや日々猛暑
落雷の腹の底打つ昼餉時
土用波岩に碎けて空に舞ふ



信
晴代
鉄夫
雅俊

八月

軒下に音色涼しき陶風鈴
五分遅れ残暑の辻の時計台
野良仕事明日の段取り夏の月
そよ風に猫が大の字秋日和



信
晴代
鉄夫
雅俊

九月

引き戸開け虫の初音を確かめし
ちんまりと栗きんとんの供え物
落景して色の深みし木の实かな
まず一献料理の前の温の酒



信
晴代
鉄夫
雅俊